

「やまゆりポーク使用 粗びきサラミ」新発売 部門横断プロジェクト 県産畜産物加工品に着手

生活課は4月下旬に「やまゆりポーク使用 粗びきサラミ」を発売した。初回納入分は好評につき完売。5月下旬より再入荷して販売している。

本商品は、昨年度部門を横断して組織された「業務改善プロジェクト」の提案を機に開発された。同プロジェクトは、令和4～6年度事業計画策定にあたり職員から集められた意見・提案を協議する場として発足。



「業務改善プロジェクト」の参画メンバー

コロナ禍によるコミュニケーション不足が問題視されていることも踏まえ、部門・世代を越える職員有志を募り、約1年間新規事業やナレッジマネジメント、働き方改革などをテーマに協議を進めてきた。

そのアイデアの1つとして県産畜産物の消費拡大、食の簡便・即食化ニーズに応えることを目的に、県の銘柄豚である「やまゆりポーク」を使用した加工品開発に着手。やまゆりポークの脂の旨味が活かした、濃厚な味わいのサラミとなった。

一袋65g入りで税込360円。県内JA直売所にて数量限定で販売中。



【担当職員からひとこと】

「自信をもっておすすめする銘柄豚「やまゆりポーク」を使用したサラミです。大人だけでなく、お子さまでも食べやすい優しい味に仕上がりました。ぜひご家族皆さままでご賞味ください。」(畜産部 食肉販売所 北村雅俊さん)

「かながわの食」で子どもたち、アスリートを支援

JA全農では社会貢献活動の一環として、スポーツ支援を積極的に進めている。プロ・アマチュアだけでなく、日本の未来を担っていく子どもたちまで幅広く対象とし、スポーツを通して食の大切さを感じ、食と農に対する学びを深めてもらうきっかけを提供している。



■JA全農チビリンピック2023 お楽しみ広場

JA全農は5月3日から5日にかけて行われた「JA全農チビリンピック2023」(主催：日刊スポーツ新聞社)に特別協賛し、神奈川県本部では5日に日産スタジアムで開かれた「全農お楽しみ広場」にブースを出展。農協牛乳のプレゼントと、「足柄茶」「JAみかん畑」といった県産原料を使用した飲料の販売を行った。

本イベントは小学生とその親と一緒に楽しめるスポーツイベントとして毎年この日に合わせて開催されていたが、コロナ禍で実施が制限されていた。今年は4年ぶりに全種目で開催され、競技に出場する親子連れなど約8,000人が来場した。お楽しみ広場では、全農グループが取り扱う国産農畜産物などの認知度向上を目的に各団体がブースを出展。元マラソン選手でスポーツキャスターの高橋尚子さんをはじめとするスペシャルゲストも駆け付け、「かながわブランド」に関するクイズ大会が行われた。

■2023 全農CUP 平塚大会

JA全農は5月6日・7日に、トッケイセキュリティ平塚総合体育館で開かれた卓球大会「2023 全農CUP 平塚大会」に特別協賛した。各優勝選手には県産米「はるみ」60kgを贈呈。神奈川県本部は来場者特典として県産果実グミを提供し、飲料販売ブースでも大会を盛り上げた。

本大会は男女シングルのトーナメント方式の大会(全6大会)で、平塚大会は本会協賛の3回目にあたる。5月7日に行われた男女シングルの決勝戦で、男子は戸上隼輔選手(明治大学)、女子は早田ひな選手(日本生命)が優勝した。



4年ぶりに県いちご連総会を開催

県内いちご生産者が一堂に 褒賞の授与も

農産総合課が事務局を務める神奈川県いちご組合連合会(以下、いちご連)は5月16日、「令和4年度通常総会ならびに神奈川県いちご品評会褒賞授与式」を県農業技術センターで開催。生産者32人が参加した。令和4年度におけるいちご連の事業報告・決算、そして令和5年度の事業計画・予算の承認などが行われた。



「かなこまち」の販促リーフレット(神奈川県作成)

また、同日は昨年度に行われた品評会の褒賞授与も行われた。最高賞として、立毛の部では高梨忠夫さん(JA湘南)が農林水産大臣賞、果実の部では遊作準さん(JAさが



農林水産大臣賞を受賞した高梨忠夫さん



神奈川県知事賞を受賞した遊作準さん

み)が神奈川県知事賞を受賞した。

いちご連の澤地正典会長は「令和4年度は県育成品種『かなこまち』の元年という想いで黒岩知事への贈呈やFM横浜への出演に取り組み、少しでも関心を集められたのでは。会員の協力のおかげで令和4年度の事業を終えることができた」と感謝の気持ちを述べた。

県内養豚業 プロモーション動画が完成

生産者が伝える「神奈川の豚肉の美味しさのヒミツ」

畜産部が参画するかながわ畜産ブランド推進協議会は、県内養豚業の認知度向上や消費拡大を目的としたプロモーション動画を制作した。

日本における近代養豚の始まりは江戸時代の開国にさかのぼり、神奈川県でも横浜港に居留する外国人の強い要望から養豚が始まったと言われている。以来、神奈川の豚肉は、それぞれの農場ごとに工夫とこだわりをもって生産され、多くの銘柄豚が誕生した。動画は神奈川の養豚文化を受け継ぎ、活躍する県内養豚農家にスポットを当てた。

出演したのは臼井農産(厚木市)、横山養豚

(横浜市)の生産者。美味しい豚肉を、県内の多くの皆さまの食卓に届けたいという生産者の想いを伝えている。



同協議会担当者は、「この動画を通じて、生産者のこだわりや想いに触れ、県内産の豚肉に興味をもってもらいたい」と期待を寄せる。

本動画は神奈川県公式YouTubeチャンネル「かなちゃんTV」にて公開中。

動画はこちらから

